



社会貢献参加をアピールして記念撮影



「R乾電池」のパック詰めをする中田市長(中央)



「R乾電池」を販売するコンビニで中田市長と



「R乾電池」を販売するふれあいショップ

すばらしいのものです。正確で丁寧、何時間でも熱中して作業を続けます。そして、作業に従事している皆さんには、仕事をの成果と意義に大きな喜びを感じています。

全国展開しているショップでも、この「R乾電池」は販売されています。障がいのある方たちが施設の近くの店先で自分たちがパック詰めした商品がきれいに並んでいるのを目の当たりにし、みんな大喜びされたと、各地の施設からご報告をいただきました。

2005年には、行政とNPOの協働事業として、全国で初めて横浜市との

「リサイクル乾電池・リユース事業」がスタートしました。

使える資源は最後まで使い切り、環境に優しい生活スタイルを提案するという横浜市が推進している「ヨコハマはG30」事業[※]の趣旨にもピッタリ合う「R乾電池」のリユースを促進する活動は、4年前から続いています。

横浜市の地域作業所で「R乾電池」を商品化し、「ふれあいショップ（障がい者の働く店）」で販売をしています。また、市役所では、商品化された「R乾電池」を役所内で使用する消耗品（共通物品）として購入するとともに、乾電池の

リユースを広く市民にも呼びかけています。

これは、障がい者施設で商品化された「R乾電池」をその地域社会の中で消費するという、行政と市民が一丸となつたとても理想的な事業の一例です。ここには、環境、福祉、市民との協働の視点が盛り込まれています。

※平成22年度のごみ排出量を、対13年度比マイナス30%という目標を立て、ごみ減量・リサイクルを進めて循環型社会の形成をめざすもの。GはGomi（ごみ）Garbage（英語で「ゴミ」）Gentryo（減量）。

■4 地域密着の信用金庫に期待

静岡県全域の信用金庫には、2年連続で6月15日の「信用金庫の日」のノベルティグッズとして「R乾電池」を採用していただきました。これは、各信用金庫の地元の障がい者施設でパック詰め作業をしたもので、障がいのある方たちが直接信用金庫にできあがった商品をお届けし、ご挨拶しました。この経験は、障がいのある方たちにとって、自らの仕事の成果を直接実感できるたいへんよい機会でした。

このように、障がいのある方たちが作成された商品が、その地域の信用金庫を通じてその地域に住む方々のお手元に届き、消費される——。これは、同じ地域社会のなかにおける一種の地産地消事業とすればらしいケースと言えるでしょう。

もともと地域に密着したコミュニティ

バンクである信用金庫は、地域社会において、相互扶助や福祉といった方面に普段から非常に尽力されていますが、今後ますます地域社会の発展のために尽くされることと期待しております。

障がい者の雇用を含む福祉貢献や環境問題については、CSRの一環として各企業においてさまざまな取り組みがなされており、昨今では、より活発になつてきましたと感じております。しかし、中小企業においては、なかなかその活動が進んでいないのが現状のようです。大きな課題に挑むのではなく、地道に身近な地域社会の小さな「もつたない」を生かすことから始め、それを継続していくことが何よりも重要なことと考えます。

地域社会に密着した信用金庫の皆さまには、ぜひともその牽引役となつていただきたいと切に願います。私どもRE機構も、これまでの経験を踏まえ、微力ながらお手伝いできることもあるかと思います。

地域社会に密着した信用金庫の皆さまには、ぜひともその牽引役となつていただきたいと切に願います。私どもRE機構も、これまでの経験を踏まえ、微力ながらお手伝いできることもあるかと思います。

RE機構では、全国の障がい者施設とのネットワークがありますので、信用金庫と近隣の施設との協働の取り次ぎができます。また、RE機構のオリジナル商品だけでなく、外部企業からの提案商品

ある方たちに雇用機会をつくり、社会参加の道を開拓することを目的とする」というRE機構の活動は、少しずつご理解いただけるようになつてきました。一步一歩、地道な活動でしたが、続けてきて本当によかったです。

昨今はデジタルカメラの普及により、使い切りカメラの内蔵乾電池は少なくなつてきましたが、実は、ほかにも「もつたない」乾電池が世の中にはたくさんあることがわかつてきました。RE機構の活動をホームページで知ったという大手企業の方などから「乾電池をなんとか生かすことができないか」というご相談をいただき、現在それらの乾電池のデータを分析し、商品化を計画中です。

これからも「R乾電池」の事業は継続しながら、ほかにも障がいのある方々の能力を生かすことのできる事業をと、さまざまな商品開発などを考えてています。

(次頁)

RE機構では、全国の障がい者施設とのネットワークがありますので、信用金庫と近隣の施設との協働の取り次ぎができます。また、RE機構のオリジナル商品だけでなく、外部企業からの提案商品

〈コルクスタンプ〉



ワインやシャンパンのコルク栓を、オリジナルゴム印としてリサイ

クルする。飲み終わって捨てられるコルク栓が、とても押しやすい良質のはんことして再生される。絵手紙に最適な花押も作成できる。

〈リサイクルゴム印〉

職場で使わなくなったゴム印の板（木製またはプラスチック製）を回収し、新しいゴム印として再生する。地球上にやさしいリサイクルゴム印は、値段もお手ごろ。

〈赤丸券のリサイクル〉

古くなったお札をすき込んだ和紙を使った商品開発。有名デザイナー監修の富士山の画・大仏、行灯（LEDライト使用）、はがき、水うちわ（気化熱で涼むエコ商品）など。

※不用になったコルク栓、ゴム印などのご寄付も承ります。

せいの・まりえ

女性の目で見るマーケティングを心がけ、広告代理店業で大量販店、まちおこし、村おこし等で活躍。2004年リユース、リデュース、リサイクル等の事業で心身に障がいがある方々の雇用機会を創出し、社会参加の道を開くことを目的として、特定非営利活動法人RE機構を設立。日本で初めて行政との協同事業をも成功させた。

〈インフルエンザ対策セット〉

各企業や健保組合向けのインフルエンザ対策セットのコーディネートおよび組み立て・配送。

〈「ひもキッチリ」の製作・販売〉

資源回収の強い味方。新聞紙、雑誌、段ボールなどを簡単に結束できる、障がい者自身が考案した特許商品。

〈B級品野菜の乾燥〉

地元でできた市場に出しにくいB級品野菜・果物を乾燥して商品化（乾燥えのきほか）。

〈その他各種ノベルティ〉

レーザー加工機を使用したオリジナル商品（ネームプレート、看板、記念・表彰楯、パズル、企業名や広告を入れたコースターほか）の製作から、各種商品の組み立て等。



について、作業部分を請け負うご紹介も可能です。
実は、障がいのある方は、「金融機関の仕事をした」ということを、ことに誇らしく思っているようなのです。地域

社会の一員として、障がいのある方の能力が發揮できる場を、ご提供いただければ幸いです。私どもは、これからも地道に地域社会に根ざした活動を続けて参ります。

【特定非営利活動法人RE機構の事業内容】

- 心身に不自由のある方々に対して、独立性・多様性のある社会参加・社会貢献の道を開くための雇用機会創出等、理想モデルの確立およびその教育・啓蒙活動
- 心身に不自由のある方が働く場である施設の環境改善支援
- 心身に不自由のある方々を支援する人々・団体のアライアンス・ネットワーク構築の仲介・斡旋

〒182-0001 東京都調布市緑ヶ丘2-44-5-308

TEL : 03-5314-2142 FAX : 03-5314-2143

ホームページ / <http://www.re-kikou.org/>

メール / postmaster@re-kikou.org